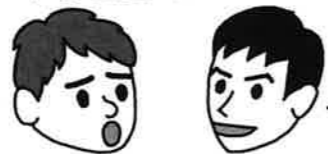


まずは学校内での対話をしましょう！

うちの学校も訪問研を半日にしてほしいです。



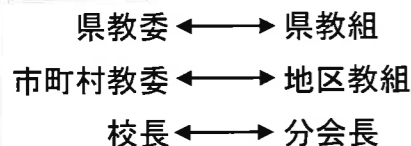
一番いいのは、分会で意見をまとめて校長に提案することだね。



タモリ

分会長は、分会交渉の場面では、**校長と対等の立場**になります。組合員の生活と健康を守るためにも自分たちの意見をしっかり伝えた方がよいです。

一口メモ「カウンターパート」



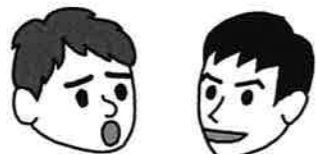
労使間の交渉は基本的にカウンターパート（対等な立場にある相手）で行われます。ちなみに正式な「交渉」ができるのは、人事委員会に登録された県教組だけで、地区教組、分会ができるのは、「申し入れ」「要請」になります。とは言え、教育委員会や校長がそれを無視することは社会的な正義に反します。

ちなみに今年度の県教委交渉で、県が行う学校訪問研修が負担になっていることを訴えたところ、県教育長は「校長の判断で長時間労働になっているなら校長が認識を変える必要がある」と答弁しました。「健康や命より大切な研修はない」というところでは、県教組も県教委も同じ考えです。



アノセ

だったら県教組から校長に言ってもらいましょう！



カウンターパートの考え方からすると校内の問題は、まずは分会で申し入れをするのが基本だよ。



ヒミ

でも、中にはかなり強引に学校運営をすすめる管理職もいます。県教組に相談して解決した事例もたくさんありますので、いつでもご相談ください。



スズキ

集まるのが難しい分会もあります。その時は、まず近くの同僚とお話しましょう。だれか一人でも賛成してくれるなら訴える価値はあります！分会交渉ができなければ、校内多忙化解消会議や校長との面談の中で提案する方法もあります。

全体の問題は県教組へ



アイザワ

県教育委員会、市町村教育委員会、各種教育関係団体、外部団体へ訴えたいことは、県教組にお知らせください。

分会の代議員、分会長は、同封の**とくみA(分会FAXアンケート)**に分会の意見を記入し、県教組本部にお送りください。

子どもたちのためにも働き方改革をすすめよう！



ノザワ

県教組のアンケートでは教員の多忙が子どもに及ぼす不利益の1位は「話を聞いてほしい子に向き合えない」、2位は「学習でつまづいている子に時間が取れない」でした。困っている子に手を差し伸べるゆとりを取り戻すためにも「**具体策**」と「**横展開**」で学校の働き方を改善していきましょう！



今回は春の要求討議資料！

とやまケンキョーソ特命

多忙解消

セキュリティーポリス

No. 28

「学校の働き方改革」次はどうする？

先輩、学校の働き方改革ってなかなか進みませんよね。



セメル

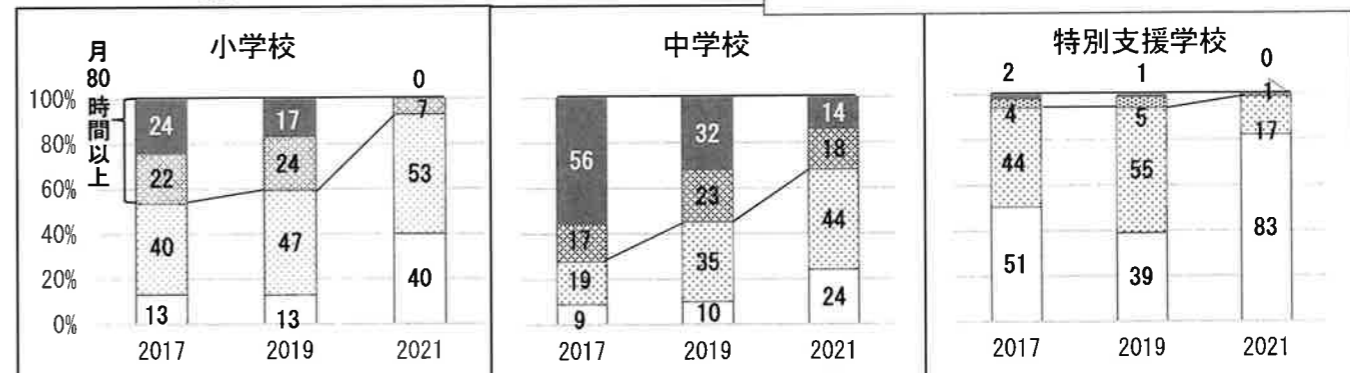


マモル

それがそうでもないんだ。このグラフを見てみてよ。

時間外勤務時間(9・10月)の推移※県教組調査

□45時間以内 □45～80時間 □80～100時間 ■100時間～



2017年から2021年の間に、時間外勤務が過労死ライン（月80時間以上）だった人の割合は、小学校で46%⇒7%、中学校では73%⇒32%、特別支援学校では6%⇒1%と確実に減少しています。長時間労働は改善されてきているのです。

2017年には中学校の56%が月100時間越えだったなんて…



少しずつ進んでいるから実感しづらかったんだね。



伊勢分会長

この改革がすすんだ裏側には、**県教組や日教組の粘り強いとくみが**あったことを忘れてはいけません。

県教組・日教組のすすめた改革

- 2016年 日教組が学校の多忙をマスコミや政府に強く訴える。⇒マスコミが教員の多忙を報道する。滑川市の中学校教員が亡くなり、県教組が公務災害認定申請にとりくむ。
- 2017年 県が部活動休養日を設定する。⇒中学校の時間外勤務時間が減り始める
- 2018年 滑川市の中学校教員の過労死が認定される。⇒県内で教員の多忙が社会問題に。日教組の働きかけにより、中教審で「学校の働き方改革」が審議される。教育委員会が次々とタイムカードを導入し始める。⇒「働き方改革の風」が吹き始める
- 2019年 県教委が「とやま学校多忙化解消推進委員会」を設置する。⇒県が本気になり始める
- 2020年 給特法が改正され、県教委・市町村教委が時間外労働の上限を規則で制定する。⇒月45時間年間360時間の上限が法に位置づけられる



ノザワ

学校の働き方改革は、次のステージに進まなければいけません

学校の働き方改革「次のステージ」とは？(裏へ)

学校の働き方改革
「次のステージ」のキーワードは

「具体策」と「横展開」

県教組では「具体策」の提言を行っています

富山県教組では、「これ以上何を減らせばいいのかわからない」という学校や教育委員会への提言として、「先生に元気をチャージ！プロジェクト」を発売しました。組合員へのアンケートを基に、学校の多忙を軽減する**8つのアクション**を**具体策**として示しました。

子どもたちの笑顔のために **先生に元気をチャージ！プロジェクト**
 教職員の残業を月 45 時間・年間 360 時間以内にするためのロードマップ

ステップ1 教育委員会・学校が「学校の働き方改革」の必要性を保護者・地域に周知
ステップ2 時間外勤務縮減に向けてのアクション8
ステップ3 教育委員会・学校が好事例の情報交換

アクション1 (市町村教委) 始業式を4月10日に実施7日間の準備期間で4、5、6月各月10時間元気チャージ
アクション2 (小学校) 児童の下校を30分早める毎月10時間元気チャージ(1時間早めると20時間チャージ)十分な授業の準備が子どもの笑顔に！
アクション3 部活動の負担軽減 (中学校・県教委・市町村教委) 平日の活動時間の短縮毎月8～16時間元気チャージ子どもの学習時間の確保と下校時の安全確保先生方の授業準備時間の確保
アクション4 (県教委・市町村教委・学校) 研修を希望制に毎月5～20時間元気チャージ仕事は優先順位をつけて元気をチャージ個々の課題に合った研修を
アクション5 (学校) 行事の準備・練習を縮減毎月5時間元気チャージ懸ける行事から子どもの学びへ
アクション6 (県教委) スクール・サポート・スタッフの増員毎月6時間元気チャージ(教職員20人規模の学校)先生方から「本当に助かる」との声多数
アクション7 (市町村教委・学校) 通知表の見直し発行回数、所見欄の文言表記の縮減毎月7時間元気チャージ「通知表」から「面談」へ数字より直接の声かけで笑顔がアップ
アクション8 (県教委・市町村教委・学校・保護者) スマホ・オンラインゲームのトラブルはまず保護者と子どもで解決を毎月8時間元気チャージ親子の対話を通して子どもの責任感を育てるスクールロイヤー等の学校スタッフの活用

富山県教組が作った「先生に元気をチャージ！プロジェクト」は、他県の組合で学習会に使用されるほど好評です。

各分会では「横展開」にご協力ください！

「横展開」って何ですかね？

好事例を広げていくことだよ。

ある学校の例…

組合の新聞に「研究紀要をやめた」という事例がでていて、「うちの学校でもやめましょう」と提案してみました。

すると、管理職が「やめよう」と決断して、本当になくなりました。やめても全然問題はないし、言ってみてよかったです！

こうやって他校の業務改善を積極的に取り入れていくことで「横展開」ができます！

こんな声も聞かれます…

分会集会をしようと言うと、同僚から「それ自体が多忙化になる」と言われるし…

校長との交渉なんてできないなあ。「校長に物申す」なんて怖くてムリだよ…

ところが！多くの校長先生の考えは時代に合わせて変化しています！

Before 学校のことは校長の私がすべて決める！余計なことは言わなくてよい！

After 皆さんのアイディアを聞かせてほしい！働き方改革は学校全体の課題です。

校長先生自身も教育委員会から多忙解消を迫られているという背景があります。

教員のなり手不足が深刻な今、若者が安心して教員になれる環境を作ることが大切です。

ワシもコロナで縮減した行事を元に戻すつもりはないぞ。

槍杉校長

県教組は「具体策」の働きかけをしています！

とやま学校多忙化解消推進委員会

アクション1 始業式

4月の始業式を遅らせてほしいという声大きい。時間を与えずに仕事を課するのは学校の悪しき慣習。

朝日町、魚津市が来年度、始業式を1日遅らせる。(4月7日に)

記者会見

アクション8 ネットトラブル

中学校の教員の約9割が子どもが家庭で起こしたネットトラブルの解決にあたっている。保護者の方はもっと子どもに関心をもってほしい。

テレビ3社・新聞4社が報道！保護者や地域社会に訴える！

県教委交渉

アクション6 スクールサポートスタッフ

コロナで負担が増えたという先生が8割！現場の先生方が求める人材の1位はSSS！

昨年度、未配置だった中学校51校にSSSの配置が実現！

マスコミとアンケートをフル活用！

アイザワ

下校時間、部活動、行事、通知表なども、各学校で少しずつ改善されています！

県教組はこれからも働き方改革の「風」を起こします！

参考

あなたの学校ではどうですか？各学校の好事例いろいろ！☑チェックしてみてください

<input type="checkbox"/> 家庭訪問廃止または回数の縮減	<input type="checkbox"/> アクションプランを3つから2つに
<input type="checkbox"/> 夏休みの作品応募は完全自由または廃止	<input type="checkbox"/> 掃除をしない日の設定
<input type="checkbox"/> 学習・行動の所見は年1回のみ	<input type="checkbox"/> 児童の下校を30分(1時間)早める
<input type="checkbox"/> 4月に名前シールを購入	<input type="checkbox"/> 部活動は17時まで
<input type="checkbox"/> 一人1研究授業廃止(訪問研のみ)	<input type="checkbox"/> 離任式廃止または挨拶のビデオ視聴
<input type="checkbox"/> 研究紀要廃止	<input type="checkbox"/> 会計報告の2期制
<input type="checkbox"/> 学校訪問研修は半日開催	<input type="checkbox"/> プール開放廃止
<input type="checkbox"/> 始業式等の児童生徒の発表は廃止	

「うちの学校でも取り入れたい！」⇒裏へ